

運動負荷心電図（トレッドミル）検査同意書

1 検査の目的

この検査は安静時ではなく、日常生活動作の中で現れる胸痛、動悸、息切れなどの症状を再現し、心臓の機能が維持されているか、狭心症発作を起こさないかなどを判断するために行います。この検査を行うことで、狭心症の診断、運動時の心臓耐久力、不整脈の変化を判定することができます。

2 検査方法

ベルトコンベアー上の通路の上を機械のペースに合わせて歩いていただきます。徐々に上り坂になり、歩く速度も速くなっていきます。検査中は循環器専門の医師が見守り、常に心電図を記録し、血圧も測定します。また、ご自身がどのくらい辛くなったかもお聞きします。ある一定の心拍数まで達したとき、ご自身の足が辛くなった時、心電図異常が出現したときなど医師の判断により終了します。

3 危険性・合併症・副作用について

運動負荷心電図検査をすることで副作用が起こることがあります。血圧低下／上昇、めまい、脈の乱れ、失神、胸部不快などがあります。また負荷をかけることで、誘発された狭心症が長引き、さらに心筋梗塞や不整脈が生じる可能性もあります。その際には緊急入院を含む緊急処置が必要になることがあります（日本心電図学会によるデータでは緊急入院43000試験に1回、死亡264000試験に1回）。また、検査中に異常だと感じたら、ためらわずにすぐにお知らせください。ただちに緊急停止しますが、その際、転倒それによる骨折などの合併症が生じる場合もあります。

* 同意書は検査を受ける方にお渡しいただき、検査当日にお持ちくださるようご説明をお願いします。

* 同意書の控えが必要な場合は、コピーをお取りください。

私は運動負荷心電図検査の目的、危険性、副作用等について説明をしました。

年 月 日 ()

説明医師（署名）：

私は、上記説明を受け内容を理解した上で本検査を行うことに同意します。

（同意された場合いつでも撤回することができます）

年 月 日 ()

患者署名：

